

自由集会の報告

札幌市で開催された第 58 回日本生態学会において、北海道自然史研究会として下記の自由集会を開催した。報告の他、会場にアクリル封入標本などを展示した。大会の案内も配付した。参加者は少なめだったが、コメンテーターから本州の事例や問題の指摘などもあり、今後の活動の参考となる有意義な集会となったと思われる。これから録画を活用して集会記録の活字化を実施する予定。

北海道の自然史研究の現場はどうなっているか？：北海道自然史研究会の取り組みと生態学

■日程 3月8日（火曜日）17:00～19:00

■会場 札幌コンベンションセンターE会場

■企画者 持田誠（帯広百年記念館）・渡辺修（さっぽろ自然調査館）

■報告者

- ・宇仁義和（東京農業大学オホーツクキャンパス博物館情報学研究室 准教授）
- ・辻 ねむ（標茶町郷土館学芸員）

■コメンテーター

三橋弘宗（兵庫県立人と自然の博物館学芸員）・鈴木まほろ（岩手県立博物館学芸員）

■参加者数 32名

■懇親会

東札幌駅前の「やきとり道場」にて 19:30～22:00 頃まで開催した。隣接した自由集会「山里海のコモンズ再生に向けての生物分類スキルのあり方とは？在野・在地のパラタクソノミスト大集合」の参加者と合同となり、合計 26 名が参加した。

■流れ

1. 持田 誠：趣旨説明

1. 宇仁義和：自然史研究の現場を抱える博物館の課題

- (1) 地方博物館の役割：①研究素材の収集・保管・提供／②結節機関
- (2) 北海道での緊急課題：①学芸員館長の退職／②先送りされる新体制／③著しい老朽化
- (3) 「私たちを取り巻く状況」①博物館の法的多型／②疎外された自然史博物館／③全国組織・階層構造の欠如
- (4) 問題提起①衰退しているのはコミュニティ／②帰属コミュニティの再考／③自然史博物館を学会の顔に

2. 辻ねむ 三人寄れば文殊の知恵！みんなで探る、標茶町天然記念物ベニバナヤマシャクヤクの生態

- (1) ベニバナヤマシャクヤクとは？
- (2) 郷土館における調査研究活動（ベニバナヤマシャクヤク）
- (3) 協力体制の特徴
- (4) 今回の協力体制の効果
- (5) 活動全体の問題点

3. 渡辺修 北海道自然史研究会の取り組み -情報の集積と連携-

- (1) 自然史研究会の紹介：歴史、参加者、活動内容
- (2) 情報のウェブ公開と共有化の現状：独自サイト・研究報告・紀要のデジタル化
- (3) ウェブにおける博物館の研究の存在状況
- (4) 今回のデータ化事業について
- (5) データ化している博物館研究報告論文の特徴
- (6) データ化事業の成果と可能性
- (7) ウェブ発信の意義

4. 道外の自然史研究者から：コメンテーターからの報告

・年に1度、2年に1度でも良いから、とにかく顔を合わすこと／「学芸員1人1芸」とし、研修会を開催／理想論ではなく現実に出来ること、の研修会（100円ショップのモノを活かす、照明の当て方など／東北の現状、等 ※時間が不足し、会場の参加者を交えた十分なディスカッションには至らなかった。